



各地で行われたイベント&話題をお届けします

● 病院に癒しの音色を 西城市民病院にオルゴールを寄贈

12月16日、地元有志から西城市民病院に円盤オルゴールが寄贈され、贈呈式と記念コンサートが開かれました。贈られたオルゴールは、直径25センチの円盤に並んだ突起が、くし状の金属板をはじいて曲が流れ、音量や演奏スピードも調節できる大型のものです。昨年1月、西城町出身でオルゴール作曲家の橋本勇夫さんをふるさとの大屋地区に招いて開いた新春コンサートをきっかけに、オルゴールが病院のイメージアップになればと、地元有志代表の國上美明さんが住民に寄附を呼びかけました。

病院内の介護老人保健施設「せせらぎ」で行われた贈呈式で、國上さんから郷力和明院長に目録が手渡され、続いて行われたコンサートでは、橋本さんがオルゴールとギターで10曲を演奏し、お年寄り70人がやさしい音色に聞き入っていました。

國上さんは、「夢がかなって大変うれしい。オルゴールの音色は音楽療法にもいいと聞き、ぜひ実現したかった。協力いただいた皆さんに心から感謝します」と話していました。また、郷力院長は、「入院・入所されている方や来院される方の心のやすらぎと、明日への希望につながるよう十分活用したい」と歓迎しました。



オルゴールとギターのやさしい音色のコンサート

● 小さな観光資源も大きな財産 比和まちなか活用研修会

比和まちなかの観光資源の掘り起こしを学ぶ研修会が12月16日、比和文化会館で開催され、比和自治振興区役員や比和支所職員らが参加しました。

これは、地域の個性を活かす「クラスターのまちづくり」の一環として比和支所が企画。

広島県観光アドバイザーで、ひろでん中国新聞旅行網の有田隆司取締役が講演し、「比和の地域資源を月別に整理してみよう。心のこもったおもてなし、心配りは地域No.1になりましょう。比和町を訪れた方に感動という土産を持ち帰っていただき、自慢してもらいましょう」と参加者へ呼びかけました。また、「イベントに地域住民が参画することで、地域に光と笑顔を取り戻せる」と提言もありました。

参加者は「とってもいいお話で、元気ができました」と目を輝かせていました。



多くの観光客を呼びこもうと講演する有田さん

● 今年の干支「うし」を作製 親子で楽しむ木工教室



パーツをつなぎ合わせる親子

1月9日、東城子育て支援センター「こどもの館」で、新春企画「親子で楽しめる木工教室」が開催され、20組の親子が参加しました。

桜の木で作ったパーツをつなぎ合わせて、思い思いの牛を制作。中には、耳のパーツが角やしっぽになるなど、個性的な牛も出来上がりました。参加した親子連れは、完成した牛を手記に記念撮影をしたり、年末年始の話題で盛り上がり、楽しいひと時を過ごしました。

指導した谷口明子さんは、「桜の木は木目がきれいで、工作もしやすい。牛の耳をとると鬼にも見えるので、来月の節分まで飾って楽しんでほしい」と話していました。



● アルミ缶を集め、車いすを寄贈 七塚東子ども会がクリスマスプレゼント



七塚東子ども会（会員26人）が12月24日、庄原赤十字病院を訪れて、車いす1台を贈りました。この車いすは、子どもたちが地域の各家庭を回ってアルミ缶を収集し、回収業者に販売して得た資金で購入したものです。

贈呈式では、子どもたちが「大切に使ってください」とあいさつ。受け取った中本淳事務部長は「この病院には、毎日約270人の外来患者がおられ、お年寄りも大変多い。廊下を歩くのも苦労されているので、皆さんのプレゼントは大変助かります」と感謝の言葉を述べました。

アルミ缶の回収活動は6年前から始め、子ども会活動の資金にしていたましたが、車いすの寄贈は初めて。子どもたちは、自分たちの活動が地域の役に立ったことを実感し、笑顔が広がりました。

「大切に使ってください」と子どもたち

● かぼちゃ汁で元気に年越し 「110番の日」広報広場



かぼちゃ汁を食べて防犯意識を高める

12月21日、ショッピングセンター「ウイル西城」駐車場で、庄原警察署と西城交番連絡協議会のメンバーが、「110番の日」を広報する広場を開設しました。

この活動は、110番の正しい電話のかけ方や、年末年始に交通事故や犯罪に巻き込まれないよう呼びかけるものです。メンバーは「安全の栓は抜かないで」と声を掛けながら、行き交う人にチラシと栓抜きを配りました。

また、この日は冬至でもあり、地域の食材をふんだんに使った「かぼちゃ汁」250杯がふるまわれました。

西城交番連絡協議会の柴木睦博会長は、「今年は特に不景気で、空巣や盗難、振り込め詐欺をはじめとした犯罪の増加が心配されるので、鍵かけなどの防犯対策をしっかりとって、元気で安全な年越しをしてほしい」と話していました。

● 無病息災を願い、親睦を深める 田総の里「とんど焼き」

総領町^{たぶさ}の田総の里自治会が1月10日、伝統行事「とんど焼き」を行いました。

地域住民や出身者など約50人が参加。各家庭から持ち寄ったしめ縄などとともに、高さ約6メートルの青竹、杉の枝に点火。勢いよく燃え上がった炎に、今年一年の無病息災を願いました。

とんど焼きの炎で焼いた餅を食べると健康に過ごせると言われており、焼きあがった餅をぜんざいにして、おいしそうにほおぼりながら、地域の親睦を深めました。



燃え上がる炎に願いを込める地域住民



● 地元料理で観光客をもてなす 大鬼谷「元旦もちつき交流会」

1月1日、高野町南の大鬼谷オートキャンプ場で、恒例の「元旦もちつき交流会」が行われました。

このキャンプ場は、雪中キャンプを楽しみながら年末年始を過ごす家族連れが、広島市をはじめ関西や九州などから多く訪れています。観光客に地元の正月を楽しんでもらおうと、南地区の有志をはじめキャンプ場の従業員が15年以上、もちつきで交流を続けています。

小雪が舞う中、観光客は杵でもちをつき、「おっぷり雑煮」「きな粉」「ぜんざい」と、好みの味を楽しみました。また、地元料理の「ワニの刺身」「赤貝の煮付」「煮しめ」「漬物」を食べながら、「今年も元気で頑張ろう」「都市と農村の交流を深めよう」と話し、再会を誓い合いました。



リピーターが多く参加する「もちつき交流」

● 新そばで食育 比和中そば打ち体験



そば粉をこねる生徒

比和中学校1年生14人が12月11日と18日の2日間、食育の一環として、そば打ち体験をしました。

「比和そばの会」の皆さんの指導のもと、そば粉100%の10割そばに挑戦。生徒は「見ているより、やってみると難しい」と話しながら、そば粉を「こねて」「のばして」「切る」という一連の工程を学びました。

打ち立てのそばは、「そばしゃぶ」にして、笑顔でほおばりました。保健師から「そばはコレステロールを下げ、糖尿病予防などの効果もある。そば湯には、そばに含まれるビタミン類が溶けているので、ぜひ飲んでください」と説明を受け、そば湯の味も楽しんでいました。

● 新春の舞は縁起がいい 口和神楽新春定期公演

口和町の神楽団体「戸山会」が1月2日、口和町老人福祉センターで、新春定期公演を行いました。

帰省した町出身者らに、ふるさとも感じてもらうと、正月の恒例行事になっています。「猿田彦の能」「恵比寿舞」などの演目を披露し、華やかな舞で観客を魅了しました。また、もちまきも行われ、拾ったもちを縁起物として持ち帰る姿が見られました。

戸山会は、口和町常定神楽を継承し、現在に伝えるとともに、地元中学生へ神楽の指導も行っています。



観客の目の前で迫力ある舞